

## 北海道放送

### 事業の名称

町内会・大学・放送局による「防災減災×魅力再発見 まちづくりマップ」制作のメディアリテラシー活動

### 共同で事業を実施した団体

- 北海道ニセコ町中央連合町内会：昭和36年4月に町内唯一の町内会連合体として設立され現在に至る。連合町内会には7つの町内会があり、会員戸数は158戸、250人が居住している。例年は、「中央元気か〜い」の開催（毎週木曜日）、町内のゴミ清掃（6月）、町民運動会への参加（7月）、七夕祭り（8月）、全町盆踊り大会への参加（8月）、狩太神社祭への参加（9月）、かぼちゃランタンイベントへの参加（10月）、全町ボレーボール大会への参加（11月）等の事業を行っているが、2020年以降はコロナ禍のためほとんどの事業を中止している。
- 北海道ニセコ町：農業と観光を基幹産業とする人口約4,900人の自治体。国内最大級のスノーリゾートを有して国内外の来訪客を受け入れている国際都市。地震や風水害等の災害が少ないため、町は近年の気候変動を受けて住民の防災意識向上を図る施策を推進している。
- 北海学園大学：札幌市内に本部を置く北海道最大の私立総合大学。北海道放送（HBC）と2018年に包括連携協定を結び、アカデミズムとメディアの立場から地域創生と人材育成を掲げて多様な事業を共同展開している。これまでに大学生のメディアリテラシー向上を図る特別講義や地域住民の防災意識の向上を図る出前講座などを実施した。

### 事業概要

土砂崩れや川が氾濫した時など災害時の危険箇所は、我が町ではどこにあるのか？本事業は、地域の防災に資する地図を住民が自ら作ることで、防災意識を高めることを目的とした。同地図には危険箇所だけでなく、観光スポットやグルメ情報など地域の魅力情報も併記して、普段の暮らしで活用しやすい仕様にした。こうして完成した「防災&魅力マップ」を各家庭に配布し、行政が作成したハザードマップと併用してもらうことで、防災に資することを企図した。

町内会・大学・放送局の三者の役割は以下のとおり。

事業の主体はニセコ町住民とし、町内会の高齢者と町内の小学生の参加希望者がメインプレーヤーとなった。北海道ニセコ町は地震や風水害の災害が少ない地域で、町は近年の気候変動を受けて住民の防災意識向上を図っている。本事業はこの施策の一つに位置付けられ、町の総務課防災係と共同で事業を進めた。

北海学園大学は「防災・魅力マップづくり」に関する研究成果と制作のノウハウを

有し、同学の担当教官（人文学部・谷端郷講師＝人文地理学）と学生有志が研究と学習の目的で本事業に参加し、住民と共に「防災&魅力マップ」の制作に当たった。

HBCは本事業を企画して地域と大学の連携を図り、「防災&魅力マップ」の普及で住民の防災意識向上に資する役割を担った。またマップづくりの様子を放送やSNSで報じることで、本事業の有用性を視聴者やユーザーと共有した。

## **事業の成果**

### **【連携づくり】**

- ・ 2021年4月～5月：ニセコ町（同町中央連合町内会とニセコ町役場）×北海学園大学×HBCの三者で打ち合わせを3回行い、事業内容の詳細と工程を決めた。

### **【準備と座学】**

- ・ 5月～7月：北海学園大学の担当教官および学生有志とHBCで、「防災&魅力マップづくり」の過去の研究成果と地図制作のノウハウを学ぶゼミナールを4回行った。

### **【三者による予備調査】**

- ・ 8月：北海学園大学の担当教官と学生、HBCの担当者がニセコ町を訪問し、町内会の幹部と本事業の趣旨を確認し、今後の日程を決めた。また同日、担当教官と学生は町内会の幹部と共に対象地域を下見し、危険箇所の聞き取りや魅力箇所の情報収集を行った。

### **【模擬調査】**

- ・ 9月：北海学園大学の担当教官と学生、HBCの担当者が、ニセコ町での本調査を想定して、大学周辺の札幌市内で模擬調査を行い、本調査の準備を整えた。

### **【マップ制作に向けた本調査と情報整理】**

- ・ 10月：北海学園大学の担当教官と学生、HBCの担当者がニセコ町を訪問し、町内会の住民や小学生と共にマップの制作に向けた学習・調査・情報整理を行った。調査に先立って役場で学習会を行い、住民・小学生・学生が机を並べてマップづくりの目的や利用方法などを担当教官の講義で学び、役場の防災担当官による説明で町内の危険箇所の現状を確認した。その後、全員で対象地域を歩いて回り、災害時に河川の氾濫や土砂崩れの危険がある箇所などを写真撮影やスケッチして記録し、付近住民から対策の現状や注意点を聞き取りした。調査後、役場に戻って情報を整理し、地図にそれらを落とし込む初稿の作成作業をした。

上記の様子は、ニュース取材して、HBCテレビとLINE HBC NEWSで報じて、本事業の有用性を視聴者やユーザーと広く共有した。

### **【データ処理と地図化】**

- ・ 11月～2022年2月：現地調査でまとめた情報を北海学園大学でデジタルデータ化し、学生らが情報の取捨選択、史実との照合、画像データのレイアウトなどを、担当教官の指導の下で行った。

### **【マップ完成の報告会と各戸への配布】**

- ・ 2月：マップは「防災編」1枚と「魅力編」1枚にまとめて1セットとした。住民用に200セット、大学とニセコ町内の関係施設掲示用ほかに50セット、計250セットを成果物として印刷した。
- ・ 3月：事業の成果と課題を当事者で確認すると共に、マップの使い方を説明する報告会をニセコ町で開催し、町内会・大学・放送局の三者が参加した。報告会はコロナ禍の下、「まん延防止等重点措置」期間中の開催となったため、学生と担当教官は札幌からオンライン参加となった。ニセコ町の会場(町役場の会議室)には、町内会の住民、小学生、役場担当者、HBCの担当者が参加した。報告会では、マップづくりの成果や防災知識を小学生や高齢者にもわかりやすく理解してもらうため、クイズ形式で確認し合う手法が取られた。町役場の担当者からは、町内の他地区でも今後、同様の事業を展開することを検討し、住民の防災意識向上を拡充したい旨の発言があった。
- ・ 報告会の終了後、完成したマップを中央連合町内会の各戸と同会集会場、町役場、小学校、図書館、教育関連施設などに配布した。

**【研究と学習へのフィードバック】**

- ・ 3月：事業に参加した学生と担当教官、HBCは札幌で反省会を開き、事業を研究と学習の視点から検証して、課題と今後の展開を話し合った。その中で、コロナ禍の移動制限に伴って現地での活動が十分にできなかったことが悔やまれた。一方、10月の調査で町史に記載されていない川の氾濫の事実が住民の証言などから発掘され、このことを今後、継続調査する希望が出された。また学生がキャンパスを出て住民と接し、地域の課題解決を一緒に試みたことに「大学の授業では得難い経験ができた」との声があった。

以 上